

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都橋大学 新管理・教室棟(仮称)建設工事	階数	地上6階地下1階
建設地	京都市山科区大宅山田3 他54筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	3,449 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年10月23日
敷地面積	63,564.91 m ²	作成者	類設計
建築面積	2,498.12 m ²	確認日	2019年10月23日
延床面積	11,126.11 m ²	確認者	類設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	67%
③上記+②以外の	67%
④上記+	67%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境	Q1のスコア = 3.3
Q2 サービス性能	Q2のスコア = 3.2
Q3 室外環境(敷地内)	Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー	LR1のスコア = 4.4
LR2 資源・マテリアル	LR2のスコア = 3.5
LR3 敷地外環境	LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	<p>計画地周辺の山々や低層住宅地、既存校舎と調和するデザインとした。</p> <p>バスロータリーから段差なくアクセスでき、各棟へのアプローチの結節点となる計画とした。</p>
その他	特になし
Q1 室内環境	<p>全面的カーテンウォールと屋上のトップライトから採光を確保できる計画とした。</p> <p>西日に対しては電動ロールスクリーンを設置し、安定した学習環境を確保できるように計画している。</p>
Q2 サービス性能	<p>キャンパスストリートから段差のないバリアフリーな動線とし、起伏の多い敷地においても各棟へアクセスしやすいようにエスカレーターとエレベーターを設置している。</p> <p>講義室や事務室には十分に窓を配し、外部環境を感じられる計画とした。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>既存建物との調和を図るために、既存建物と同じスクラッチタイルを採用している。</p> <p>ファサードには人工エネルギーを設置し、京都らしさを感じられるデザインとした。</p>
LR1 エネルギー	<p>高効率空調機を採用し、環境負荷の低減を行っている。</p> <p>LED照明を用いて省エネルギー化を図る、全熱交換型空調換気扇やLow-Eガラスを採用することで外部不可の低減を行っている。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>衛生器具は清掃の容易な節水型機器を採用し、限られた資源を有効に利用する計画としている。</p>
LR3 敷地外環境	<p>高層部は道路境界線より離隔を取り、圧迫感を軽減している。</p> <p>近隣住宅に面する窓には目隠しフィルムを設置することで視線対策を行い、周辺住民の生活環境に配慮した計画とした。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される